

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2023年 4月 30日

事業所名 BISSUSSじゅにあ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		ソファやテーブルを設置したり、自由に体を動かせるスペースを設けたりして、児童たちの需要に合わせたスペースづくりをしている。	
	2 職員の配置数は適切である	○		利用児童数をふまえて、職員の勤務を決定している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		多目的トイレ、車椅子用スロープなどを準備している。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎朝ミーティングを行い、支援の振り返りを行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		書面でのアンケートの実施してこなかったため、定期的の実施していきたい。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○		書面でのアンケートを実施してこなかったため、実施後には公表していきたい。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価は行ってこなかったため、今後実施を検討したい。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		オンライン研修の情報を職員がいつでも手に取れるとこにまとめている。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		日常的に保護者の方々とお話しして、常に現在の支援を客観的に分析し、フィードバックしている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		個人の視点による分析にとどまっているので、今後標準化されたアセスメントツールの使用を検討していきたい。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		外出、クッキングイベントなど、計画フローがあり、それにとって立案している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		児童主体で毎日の活動を決定している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日は屋内活動、休日は屋外活動を中心に支援計画をしている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		集団活動を中心に、個々の状況に合わせた個別活動を臨機応変に行っている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		ミーティングやチャットツールを利用して、細かく役割分担、情報共有を行っている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		帰りの送迎終わりに、その日の気づきを共有している。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		ご利用前のアセスメント、利用日の連絡帳などを活用している。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		質問9と同様、日常的に保護者の方々とお話をしたことを踏まえ、計画のモニタリングを行っている。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		リラックスできる活動を中心に、創作活動などを組み合わせ合わせて活動を行っている。		

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		○		今までにサービス担当者会議が開かれたことはない ので、今後児童の状況に精通した者が参画するように調整をする。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校の行事予定表を参考に、当月の活動スケジュールを作成している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在医療的ケアが必要な児童のご利用はないが、常勤の看護師がおり、提携のクリニックを有している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		関係機関との連携が十分にとれていないので、今後連携を深めてまいります。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		現在、まだ卒業生を出していないので、今後検討してまいります。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		専門機関での研修受講を行うことをできていないので、今後機会を見つけて参加していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		現在の児童の状況を踏まえ、そうした機会を設けてきませんでした。今後需要があれば、検討してまいります。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		可能な限り参加し、近隣事業所との連携、情報共有につとめている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		良いことも悪いことも包み隠さず保護者の方々とお話し、密な関係構築につとめている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		保護者の方々から困りごとの相談があれば、面談を行い、適宜助言をさせていただいている。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		ご契約の際に、十分な時間をとって説明をしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		困りごとの兆しがあれば、すかさず保護者の方々と面談を行い、助言、支援をさせていただいている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		これまでにそういった機会を設けることができなかった ので、今後実施を検討している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		ご意見など頂いた際には、逐一管理者に報告し、全体で内容の共有、改善につとめている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月のカレンダーを作成し行事予定の周知を行ったり、instagramやHPなどのSNSを用いて活動内容の発信を行っている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の取扱いに関する研修を入社時に行い、細心の注意を払った取り扱いをしている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		可能な限り、配付書類には振り仮名をつけている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナウイルス感染症対策もあり、そうした機会を持つ ことでできていなかったため、今後検討していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		各種マニュアルを準備し、いつでも手に取れるところに置いている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		常日頃から非常事態に取るべき行動を確認している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待にあたる行為を入社時に確認し、そうしたことが起きないような環境づくりにつとめている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束を行う例はこれまでにありません。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食事を提供する際には、アレルギーのある児童とそうでない児童が同じものを食べられるようにメニューを考慮している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例が発生すれば、すかさず周知をし、再発防止のための対策を講じている。	